

利用者調査で寄せられた自由意見への回答 vol.2

平成 23 年 11 月後半に実施いたしました利用者調査におきまして、利用者の皆様から様々なご意見をいただきました。この vol.2 では、職員間での討議・確認をおこなったものについての回答を公表いたします。

※ O：寄せられたご意見 A：保育園の回答

- 【O】和食がもう少し増えると最高ですね。
- 【A】当園の給食室も同じように考えました。厚労省の食事摂取基準における必要カロリーは和食で摂ることがなかなか難しいものなのですが、実際の子どもたちのカウプ指数（成長曲線）などを踏まえながら対応していきます。
- 【O】もっと外で遊ばせてほしいです。グラウンドがないので、乗り物（三輪車など）をするために、児童館や他園のグラウンドへ行くとか。
- 【A】当園舎の屋上遊戯場に、低年齢児用の乗用玩具を置くことを検討中です。また、気候を見ながらおやつ後の時間帯に屋外活動を行うことも検討していきます。
- 【O】もう少し季節にちなんだ行事やイベント事を増やしてほしいと思っています。園側に申し入れても改善していこうという姿勢があまりみられず残念です。
- 【A】毎月に行っている誕生日会ですが、保育園では下記のように取り決めています。

誕生日会は毎月行います。誕生児をみんなでお祝いするとともに、お楽しみ会を開きます。わかたけかなえ保育園では日本の文化的背景を重んじながら、節句などにちなんだイベント（寸劇など）を行います。

- 4 月：「端午の節句」（こどもの日 5 月 5 日）
- 5 月：「母の日」（5 月第 2 日曜日）
- 6 月：「父の日」（6 月第 3 日曜日）
- 7 月：「七夕」（7 月 7 日）
- 8 月：「終戦記念日」（8 月 15 日）
- 9 月：「敬老の日」（9 月第 3 月曜日） 「十五夜」（9 月下旬～10 月上旬）
- 10 月：「赤い羽根共同募金」（10 月～12 月）
- 11 月：「新嘗祭」（勤労感謝の日 11 月 23 日）
- 12 月：「天皇誕生日」（12 月 23 日） 「クリスマス」（12 月 25 日）
- 1 月：「正月」（1 月 1 日）
- 2 月：「紀元節」（建国記念日 2 月 11 日）
- 3 月：「桃の節句」（ひな祭り 3 月 3 日）

その他、餅つき・鏡開き、節分（豆まき）などもありますし、時季に応じた遊びや製作活動も行っています。一方、行事やイベント当日は楽しいことが多いのですが、事前の準備や練習などによる子どもたちの生活への影響は少なからずあり、長時間保育の児童が多い状況で行事・イベントを増やすことは、必ずしも改善とは言えないと考えます。

ただ、日常の子どもたちの様子をお伝えすることと比較して、当園では行事活動の紹介を軽視してしまっていたように思います。今後、各種おたよりや掲示板、ウェブサイトなどを通じて、行事・イベントの内容や様子などもお知らせしていこうと思います。

【O】しかるときはちゃんとしかってほしいです。食事を手づかみでもOKとしています。トイレに行ける子と行けない子の差があります。家庭にまかせすぎの点もあると思います。

【A】「手づかみ食べ」について、どのクラス・年齢かわからないのですが、保育園では食具がまだうまく使えない児童の食事に対する意欲や興味を削がないように、あえて「手づかみ」で食べるようにする時期を設けています。集団保育の性質上、食具を使える児童とまだ使えない（使わせていない）児童は同じクラス内にいるため、食具を使える児童であっても、手づかみで食べている児童を見てつい真似をしたくなるということもあります。それは児童の健全な心理であり、「してはいけないこと」と強く咎める対象ではないと思います。もちろん放任ではなく、「上手に使える子はスプーンで食べようね」というような働きかけはしています。

「家庭にまかせすぎ」について、ご要望がどの程度であるのかがわかりませんが、保育園では集団生活から生まれる社会性や協調性など道徳に関するしつけを重視し、児童の生活習慣や認識など個性に関するしつけは、基本的に各家庭がそれぞれの価値観のもとに行うものであると考えています。たとえば排泄についても、個々の成長はもちろんのこと、家庭での生活習慣や価値観によって時期や手法は様々ですから、保育園では「差があって当然」と考えていますし、しつけとは同じ時期に同じことができるようにすることではないと考えています。

なお、「叱る」ということについては、当園では下記のように取り決めています。

「してはいけないことをした時」「しなければならないことをしなかった時」に大人は子どもを叱ります。「叱る」ということは、「なぜ、したらいけないのか」「なぜ、しなければならないのか」を伝え、理解させることです。

「大人の都合に合わせない」「大人の思う通りに動かない」などは子どもの自然な姿ですから、けして「してはいけないこと」「しなければならないこと」ではありません。命にかかわることなどで急を要する時などは例外ですが、叱る時は「自分の都合に合わせようとしていないか？」ということを考えて上で、感情に流されず、冷静に話すようにしましょう。

- ①ほめるときと同様、子どもと同じ目線で、子どもの目を見て、愛情を持って叱ります。特に、遠くから大声で怒鳴ったり、立ったまま上から高圧的に話したり、別のことをしながら話したりしてはいけません。
- ②理由をきちんと説明します。大抵の場合、「危ないから」「他人が困るから」が叱る理由となりますが、まだまだ経験の足りない子どもたちは「危ない」「困る」がよくわかりません。なぜ危ないのか、なぜ困るのか、1度や2度ではなかなか理解できないでしょうが、その都度繰り返して理由を説明することで、子どもたちは段々と学んでいきます。
- ③叱るタイミングは事が起こった直後です。子どもは数時間前のことでも忘れますので、自分がなぜ叱られているのかがしっかりわかるようにします。ただし、子どもたちにも自尊心があるので、人前で叱って恥をかかせることは避けて、場所を移動するなどします。
- ④自分の思いを言葉で表現できる子どもには、自分自身の言葉で反省させるようにします。子どもに「なぜ、したのか」「なぜ、しなかったのか」を説明させて、それがなぜいけないのか、これからどうするのかを、子ども自身の言葉で語らせます。たとえ、その考えが間違っていたとしても、最初から否定せず、その考えをまずは受け入れてじっくり聞いてあげます。
- ⑤きちんと反省や謝罪ができたならほめてあげて、その後は切り替えて普段通りに接するようにします。大人がいつまでもしかめっ面をしていたり、言葉や態度が厳しかったりすると、「叱られた理由」がぼやけてしまいます。
- ⑥以前注意したことが改善されていた時には、自分で考えてできるようになったことを少し大げさにほめてあげるようにします。反対に、改善されていない時には、以前に注意したことであってもその都度繰り返して同じ注意をするようにします。「何回言ったらわかるの！」「前にも言ったでしょ！」というような叱り方は好ましくありません。

【O】 昼食食べた後、歯磨きをさせてほしいです。

【A】 歯磨きとは口腔内の細菌を除去するために行うもので、食べカスをとるという意味ではうがいで十分です。また、保育園では歯ブラシの衛生管理や危険性の問題もあるため、日中の歯磨きは行いません。（年2回の歯科検診や歯磨き指導は行っています）
ちなみに、日中は唾液の分泌量が多く口腔内の細菌は繁殖しにくい状態です。夜の就寝前に歯磨きをして繁殖元を除去すること、就寝中に繁殖した細菌は朝の起床後の歯磨きで除去することが重要です。また、歯磨きの回数を多くしたり、食後すぐに歯磨きをしたりすることが歯を痛める原因になるという歯科医もいます。

【O】 クラスによって男の子と女の子の人数に差があり、子どもの遊びに影響があるような気がします。

【A】 男子だから、女子だからとは決めつけられませんが、一般的な傾向としては男子・女子の違いはありますので、遊びにも影響があると思います。ただそれは男女差に限った話ではなく、たとえば月齢差や保育時間の差などによっても、遊びや生活に影響があると思います。いずれにしても保育園では調整のしようがないものですので、差があることを前提として、どのような影響があるのかを想定した上での保育活動を計画・実施するようにしています。

【O】 3歳児クラス以降は、1クラスで過ごしているようなので、5歳児になった時など小学校に向けての保育はどうなっていくのかは気になります。

【A】 今後フル定員となった場合、堇（3歳）6名、杏（4歳）6名、桜（5歳）6名の計18名を1クラスとして、縦割り2クラス編成（月組・星組）とする予定でいます。また、児童個々の成長発達や他児との関わり、保育時間などを総合的に判断しながら年度毎にクラス替えを行います。

《異年齢児混合保育のメリット》

- ・子どもにとっては、「年長の児童への憧れの気持ち、大きくなることへの意欲を育てる」「年少の児童への思いやりの心と態度、年長者としての責任感を育てる」
- ・保育園にとっては、クラスが減ることで複数担任制をとることができるため、単数担任制におけるデメリット（散歩や製作などの保育活動の保障がしづらい、相互チェックができず独善的な保育に陥る場合がある、事務作業などの分担ができず負担が重くなるなど）が生じない。

《異年齢児混合保育のデメリット》

- ・子どもにとっては、3歳児と一緒に遠出の散歩に出づらいなど発達過程に則した保育活動が制限されたり、年長児は我慢を、年少児は背伸びを強いられたりすることがある。
- ・保育士にとっては、ひとりひとりの発達過程を踏まえた保育計画、保育実践が要求されるが、その範囲が広いと高度な知識や技術が必要となる。

就学に向けた保育活動に限らず、年齢別で行うことが望ましいと考えられる保育活動も多々ありますので、年齢別の担当保育士を設定して、毎月数日は年齢別保育活動を行うようにしていきます。

なお、桜・杏が1名ずつとなっている今年度ですが、月組担任の中で桜担当・杏担当・堇担当を設定していて、たとえば就学に向けた保育活動は桜担当が計画し、実践を進めています。

保育園では、デメリットを極力抑えながら、メリットを最大限に活かせるように取り組んでいきます。

- 【O】 ・真剣に子どもと向き合い接してくださる先生とその場しのぎ…？と感じてしまう対応の先生と、バランスの差を感じます。
・つまらなそうに子どもと遊んでいる先生もいます。
- 【A】 そのような印象を持たせてしまって申し訳ございませんでした。職員間でも随時確認はしていますが、具体的な事例等がわかると改善しやすいこともありますので、意見箱等を通じてお知らせいただくと助かります。
なお、意見箱は匿名で構いませんし、筆跡などで判別できないように、原本は園長のみの取り扱いとなっていますので、ぜひご活用ください。
- 【O】 朝の引き渡しなどで子どもの様子などを聞くことなく、座ったままの対応で終わる方がいらっしゃるのが少し気になります。誰でもいいので、その時に1人でも入口に立ち、変わりはないかなどの確認などをして頂けると助かります。(担任の先生以外だと話づらいことも多いので)
- 【A】 朝夕に1日2時間勤務の保育補助員が計3名います。児童と関わるほか、雑務・用務を担っています。その勤務形態から、保育補助員には保護者対応や伝達、記録などの業務を行わせておらず、子どもの様子を伺うことなどは保育士の専門業務としています。利用者からは保育士との見分けがつかないため、そのような印象を持たせることとなっているかも知れません。申し訳ございませんでした。保育士の紹介は園内掲示板にて行っていますので、ご確認いただくと助かります。
朝の受け入れ時について、時間帯や勤務体制上の都合によりクラス担任以外の保育士が行うことも多々ありますが、最低限あいさつと子どもの体調確認は行うよう職員間で申し合わせをしました。どうしても児童の保育等と並行しての業務となりますので常に入口に立っていることはできませんが、きちんと確認していきます。
- 【O】 若い先生が多く、子育て経験がないせいか、心遣いや配慮が足りません。分かってないな—と思うことがよくあります。もう少し年配の方を入れた方がいい気がします。信用できるし。
- 【A】 そのような印象を持たせてしまって申し訳ございませんでした。しかし、世の中には保育者個人の子育て経験や保育経験をもって「なんでも分かった気になっている」ような保育者も少なからずいますので、年配の方だから信用できるということでもないと考えます。反対に若輩だから信用できないということでもないと考えますので、若い職員が多くてもその専門性に基づく言動に対して相応の信頼をいただけるように、職員一同日々職務に努めていきます。

☆ 今後も職員間にて検討を進めていきますが、上記の回答についての詳細な説明を希望されたり、また違ったご意見やご感想があるなどする方は、お手数ですが園長までお知らせください。ご意見や感想につきましては、1階トイレの「意見箱」でも受け付けていますので、合わせてご利用ください。